

## 令和3年度将棋指導者講習会

令和4年2月13日（日）午後2時より4時30分、名古屋市栄の愛旅連ビル3階会議室で将棋指導者講習会が開催されました。

将棋を通じた青少年育成、伝統文化継承、生き甲斐作りに熱意のある方で将棋普及指導員取得を目指される方（年齢・経験・棋力不問）が対象で、事前申込みされ方16名が参加されました。

開催にあたり、将棋連盟理事杉本昌隆八段からご挨拶がありました。弟子の藤井聡太竜王が前日の王将戦第4局を4連勝で制して五冠となった事に触れた後、将棋指導員になって一緒に普及活動に参加してほしいと語られました。

続いて杉本八段による「入門・初心者指導法講座」が30分あり、初心者には勝つ喜びを感じさせることが大切で、指導者は自玉を三段目より上がらないことを心掛け、子ども達には強い駒を活かすこと、将棋は一枚の駒で攻めても勝てないので二枚以上を使う（数の勝負）が基本、6枚落ちでは「技」を使わないと勝てないことなどを身に着けるように指導する大切を語られました。

安用寺功七段より「駒落ち定跡講座・初心者指導法講座」が45分あり、「最初の1時間で将棋を指せるようにする」ことがポイントで、次に駒の強さの順番を教え、駒の動かし方を覚えてもらう。歩・香の動きはすぐ覚える。次に桂馬・飛車・角に覚えるとよい。王将・金将・銀将は似た動きをするので覚えるのに時間がかかることを知って教えていくことが大事。最初の1手目は強い駒が動かしやすいように歩をつくことを覚えさせ、最初は棒銀戦法を繰り返し教え、その過程で合わせの歩や駒得、一軒竜、詰みを教える。守りは攻めを覚えてから教えるのがよい等を披露されました。

竹内努棋道師範から30分、30年にわたる子ども達への将棋指導の紹介がありました。最後に参加者からとの質疑が熱く語られて、終了となりました。